

令和4年度 第1回 大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事メモ

日時：6月20日(月) 13時30分～15時

場所：結とぴあ 305・306号室(3階)

○委員：17名(全21名中)

○市：市長(途中退席)、行政経営部長、政策推進課長、政策推進課3名

1 開会

事務局より開会

2 委嘱状交付

新任委員5名に市長から交付

3 市長あいさつ

- ・ 先日の選挙で再選を果たすことができ、2期目の重責を感じるとともに、委員の皆さまと再び一緒にお仕事ができることを光栄に思う。
- ・ 総合計画前期基本計画の残りの4年間には、大野市の節目となる出来事が控えている。
- ・ 中部縦貫自動車道は、本年度中に大野・勝原間の開通、令和5年秋には勝原・和泉間の開通に向けて工事が進められている。1年9か月後には、北陸新幹線の金沢・敦賀間の開業が予定されている。
- ・ 昨年12月に、小中学校再編計画を改訂し、本年度からこの計画に基づき、より良い学校環境を作っていくために、中学校区で新たな話し合いがスタートしている。
- ・ 人口減少対策については、人口維持増加策だけでなく、人口減少適応策も加えて総合的に進めることが大切である。
- ・ 具体的には、高速交通網の整備を見据えた地域経済の活性化、健康長寿のまちづくり、子育ての応援に加えて、脱炭素やデジタル化、助け合い・支え合いの地域づくりなど。
- ・ 今後も、総合計画や総合戦略の取り組みをしっかりと進めていきたい。本会議で皆さまからご意見をいただき、一緒に進めていきたいのでお力添えをお願いしたい。

(挨拶終了後、市長退席)

4 会長あいさつ

- ・ 本日はお忙しいなか、ご参集いただき、感謝申し上げます。
- ・ 江戸幕府が西暦1603年に始まったとき、江戸の人口は十数万人であったが、1700年半ばになると、100万人規模の大都市となった。その要因について、一つ目は、たゆまずに町づくりを進めたこと、二つ目に税制改正を行ったこと。
- ・ そして、三つ目が街道を整備したこと。江戸に向かって各街道が整備され、江戸を中心に人や情報のネットワークが出来がったことで経済成長につながった。そういう意味で、

中部縦貫自動車道の整備は大野市にとって大きなチャンスである。

- ・ 本会議では、皆さまから忌憚のないご意見をいただき、大野市の未来に向けての良い案を示していきたいと思うのでご協力をお願いしたい。

5 副会長の選任

事務局一任の声により、事務局から松田 典子 委員（大野市文化協会副会長）を推薦し、拍手多数により副会長に承認

6 推進会議の趣旨説明及びスケジュールについて ・ ・ ・ 資料 1 ・ 2 (事務局説明の概要)

- ・ 本会議は、総合計画及び総合戦略に基づく施策の実施状況及び効果を検証するために設置する機関である。
- ・ スケジュールについて、委員の皆さまには7月11日までに外部評価作業を行っていただき、8月8日には総合評価の報告を議題とする第2回会議の開催を予定している。
- ・ 10月には現年度施策の中間取り組み報告を議題とする第3回の開催を予定しており、7～10月には、特定分野の施策に絞って少人数で検討を行う専門部会を3回開催することを予定している。
- ・ 本年度の施策の取り組み状況や、総合評価の結果については広報おおのや市ホームページで公開する予定である。

7 議事

(1) 大野市総合計画 令和3年度施策の評価について ・ ・ ・ 資料 3 ～ 5 (事務局説明の概要)

- ・ 今回、初めて導入する評価方法であり、以前から市役所内部で行っていた内部評価に加え、外部委員に外部評価を行っていただき、総合評価を決定するという流れとなる。
- ・ 評価の実施主体は市であり、外部委員の意見を取り入れながら、総合計画・総合戦略に基づく施策を評価するというもの。外部委員は、推進会議の委員21名のほか、「施策評価アドバイザー」として、福井県立大学経済学部教授1名も加わる。
- ・ 外部評価方法としては、市の内部評価を踏まえて、指定された施策評価シートについて「意見」を書いて、「評価付け」(ABCDの4段階)を行っていただくこととなる。
- ・ 指定された項目以外についても任意で意見を書くことはできるが、評価付けはできないことにする。
- ・ 「市の内部評価の基準」は資料5のとおり。コロナ禍の影響を受けた取り組み及び成果指標には米印(※)を付けている。コロナ禍の負の影響を受けた場合でも、それを不可抗力として取り扱わずに評価している。
- ・ 委員には、別紙2「市の内部評価結果」を確認いただき、別紙1「外部評価シート」、又はオンラインフォームなどを用いて、7月11日までに外部評価を報告いただきたい。
- ・ 内部評価と外部評価に相違があった場合、推進会議代表者の南保会長と施策評価アドバ

イザーの意見を参考にしながら、市が総合評価を決定する。8月8日の第2回会議では総合評価の結果を報告する予定。

(質疑応答)

○「課題や問題点」の捉え方について

委員：外部評価の基準の中で、B評価では「課題や問題点も見受けられる」という文言が入っている。ここでいう「課題や問題点」は個人の主観で捉えれば良いのか。

会長：行政側で考える「課題や問題点」は、市民には実態がつかめないものである。一方で、市民目線の「課題や問題点」もあると思うので、それをこの評価で書いてもらうべきと考える。

事務局：会長仰せの通り。委員が考える課題や問題点を書いていただきたい。

○コロナ禍を踏まえた評価について

委員：内部評価の基準の中で「コロナ禍の影響は不可抗力として取り扱わない」とあるが、コロナが原因であっても、成果指標の実績が落ち込んでいる場合は、市の内部評価において低評価が付けられているものと捉えれば良いか。

事務局：内部評価のABCDの評価付けについては、成果指標の実績だけでなく、取り組み状況も踏まえて評価している。コロナ禍で成果指標が落ち込んだとしても、取り組みの方でそれをカバーしていると判断した場合は概ね順調と評価している場合がある。例えば、成果指標にはつながらない取り組みが活発であった場合や、成果指標につながるが数値に表れるにはタイムラグが生じる取り組みを行った場合など。

委員：評価基準は「結果が全て」と捉えられるのに、実際には努力も評価しているので、言っている事とやっている事が違う。そういうことなら「コロナ禍は不可抗力としない」と決めずに評価すれば良いのでは。

事務局：逆に「コロナ禍は不可抗力」として評価してもらおうと、個人の主観に左右されるところが大きくなると考え、「不可抗力にしない」と取り扱うことにした。ただし、コロナ禍でも頑張っているな、と思うところがあれば、その点も含めて評価いただけると有り難い。

会長：コロナ禍を不可抗力にする、しないのいずれの方法でも評価に個人差は出てくる。一旦は、この基準をもとにして個人の主観でご意見や評価をいただきたい。これらの意見等を踏まえて、私や施策評価アドバイザーが客観的な視点から総合評価の決定に対して意見を出したいと思う。

○細かい区分の施策の評価等について

委員：総合計画冊子には、全68の施策の下に位置付けられた、更に細かい区分の施策があるが、それと市の内部評価の取り組みがリンクしていない箇所がある。今回

は無理だとしても、次回からは、細かい区分の施策ごとに◎○△で評価した上で施策全体を評価すると、見る者にとって分かりやすくなる。また、総合計画には各項目に「みんな（市民・団体・企業）ができること」を設けているが、これに対する評価が施策評価シートに含まれていない。みんなで進めているのにそれが評価されないのは違和感があるので、評価対象に加えるよう検討をお願いしたい。

事務局：内部評価に当たっては、各施策の下の更に細かい区分の施策も意識して記載している。ただし、細かい区分の施策との関連性が弱かったり、関連性がある取り組みが書かれていなかったりした場合は、そのことについてもご意見いただけると有り難い。また、前期基本計画は5年間の計画であるので、令和3年度末時点で未着手の施策があることもご了承いただきたい。

委員：未着手の施策があるというなら、「概ね達成できている」で○を付けるのはおかしいのではないかな。もっと見やすい資料にさせていただかないと評価する側は判断に困る。

事務局：すべての施策には着手していないが、施策全体を見て5年のうちの1年目として概ね順調と判断したものには○が付いている場合がある。出来ていない取り組みが見えにくいというご指摘については改善を検討する。もう一つのご意見、「みんなができること」の評価については、各項目のシートを評価する中で、例えば、「取り組みが市民や団体に浸透していない。」などのご意見があれば書いていただきたい。また、「22 協働・連携」が協働のまちづくりに関連する項目となるので担当委員は、ぜひご意見いただきたい。

会長：評価する中で生じた疑問は意見として書き込んでいただきたい。もしかしたら、取り組むべきものについて記載が抜けている場合もあるかもしれないので、各委員の目でしっかり点検いただきたい。

（2）内部評価結果について・・・**別紙2**

事務局から、別紙2「市の内部評価結果」に基づき、A評価及びC評価であった施策評価シートについて、成果指標の実績及び取り組み状況を説明

（補足）

事務局：施策評価シートの中の「成果指標の検証」欄は、なぜこの評価にしたのかという要因が書かれているので、外部評価を行う際の参考にいただきたい。

（3）専門部会の設置について・・・**資料6**

事務局から、資料6「専門部会（案）」に基づき、本年度の専門部会として、「移住定住部会」を設置し、「移住・定住を促進するための方策」を検討テーマに7～10月に全3回、会議を開催することを提案し、承認。

（4）その他

（事務連絡）

事務局から、外部評価シートの提出期限（7月11日）及び第2回推進会議の開催日（8月8日）について改めてお知らせ

（委員意見）

○木の薫る遊び場事業について

委 員：施策評価シート「7 林業」について、保育園やこども園に国産材の玩具の購入を支援する「木の薫る遊び場事業」について記載があるが、国産材というだけではなく、市産材の玩具の購入を支援できないか。

事務局：ここに記載のある玩具は国産材であって市産材ではないが、本年度から市産材を使用する商品開発を支援する取り組みを開始している。このような商品が流通すれば保育園等に行き渡ることにつながる。

（会長あいさつ）

委 員：大切なことは市民とともに行政を進めていくこと。委員の皆さまから様々なご意見をいただきながら、市の施策のブラッシュアップにつながることを期待したい。

8 閉会

事務局より閉会

＞＞終了